

1. 兵役

(※ 関連資料のある箇所は太字で示してあります。)

3. 緒方信一さん

【木 田】シンガポールの占領ということについては、いろいろと悪いことがいっぱい流れますけれども、山下奉文中将がサインをして、日本軍が入っていったわけですが、司政官という形で民間から徳川さん始めいろんな関係者が行かれた。文部省との関連で申しますとね、戦後何代目になるかなあ、大達(茂雄)文部大臣のときに、緒方信一さんという方を、宮崎県の総務部長から初中局長に連れてこられたんです。その緒方さんという方は、警視庁のやり手でしてね、ゾルゲのスパイ事件を摘発した人なんですよ。ところがね、その人が、大達さんがシンガポールの司政長官になられて、片腕に持っていかれたんです。シンガポールの警視総監というような仕事を3年、占領期間中ずうっとやっておられた。

ですから当然ながら戦犯だとかという議論が起こったんですけれども、これは当時のシンガポールの中華、中国系の方々始めいろんな方からですね、緒方という人は何もそんな悪いことをした人じゃないという証言が重なりましてね、そして占領後2年くらいたって宮崎県に、お国が熊本の人だったけれども、帰ってこられて、そこを大達さんが大臣のときに呼び戻して、これが文部省の戦後の幹部の改革に関係のある仕事になるんですけれども、いい仕事をされたわけです。ですから、緒方さんという方は私も教育委員会制度改正のときに課長としてお仕えをした局長さんなんです。人柄というのは必ず民族が違ってわかると思いますかね、その人の誠実さというのはちゃんと相手の心に映っていくんだということがわかる。やっぱり基本的なものがどこかそこに流れているなあということを感じたお人なんですけれども。